

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2870800899		
法人名	力開発株式会社		
事業所名	グループホーム舞子		
所在地	(〒 655-0044) 兵庫県神戸市垂水区舞子坂3丁目14-21 ホンダビル 電話 078-787-7511		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年6月30日	評価確定日	平成21年7月28日

【情報提供票より】 [平成21年6月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	25人	(常勤13人) (非常勤12人)	/ 常勤換算16.5人

(2) 建物概要

建物構造	耐火構造		
	地上3階建て建物の 2階～3階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,500円	その他の経費(月額)	22,500円	
敷金の有・無	有り (200,000円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (円) 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	150円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成21年6月1日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性3名) (女性15名)		
要介護1	4名	要介護2	2名
要介護3	7名	要介護4	5名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均85.8歳 … (最低74歳) (最高99歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	黒田医院	木佐木歯科医院
---------	------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「舞子」駅よりバスで10分程の街中にあるグループホーム。建物(自社ビル)の2階と3階をホームとし、1階には通所介護事業所も併設されている。ビルの改築の際には、リビングの窓を大きくとるなど、利用者が自身の“住まい”としてリラックスして暮らせるよう、その環境整備を大切にしている(リビングは採光が良く、また、周辺の風景も一望でき、開放感がある)。「地域密着型」の介護サービスを提供する事業所として、地域における“認知症ケアの拠り所”となれるよう、住民たちへの介護知識還元のための働きかけも積極的に行っており、現在、「介護相談所」の設置に向け検討している。ケアの資質向上にも前向きに取り組んでおり、利用者の重度化への対応に関しても、医師との連携を強化し、看取り介護の実践に向けて職員研修を行なっているところである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①理念の具現化のため職員が話し合いを重ね、「私たちの目標」を掲げた。②地域包括支援センターと連携し、地域住民向けの認知症ケアについての研修会を実施した。③災害時の支援体制の取り組みとして、利用者情報をまとめることを検討している。④重度化した場合の指針を作成し「看取り委員会」を立ち上げた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) ユニットごとに職員がミーティングを重ね、各フロア一長と管理者がまとめた。職員全員で自己評価に前向きに取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヵ月毎に、利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、主治医、他グループホーム施設長、ホーム職員が参加している。会議では、ヒヤリハット事例・ホーム行事・職員研修の報告のほか、第三者評価や地域交流などについて活発に意見交換がなされている(地域交流のきっかけとして、地元行事についての情報収集もしている)。会議において地域包括支援センターから「介護リフレッシュ教室」の講師(出講)依頼もあり、地域へ介護知識の還元を行うことができた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の訪問時には家族が要望を表出しやすいよう、その雰囲気づくりを心掛けている。面会時には、暮らしぶりや健康状態、金銭管理等の報告をしている。ホーム行事や近況報告を掲載した「スマイルニュース」を年4回発行し、家族に送付している。遠方に住んでおられるため訪問が難しい家族には、月1回の写真入りのお便りを送付することで安心してもらっている。家族からも誕生日プレゼントの品の相談を受けるなど、“良い関係”を築けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の方々を対象に「けがをした時の対応方法」の研修会を開催した。職員(4名)は心肺蘇生法のインストラクターの資格を有しており、地域の中学校から講師依頼を受けて心肺蘇生法講習を実施している。中学校の福祉体験授業の受け入れもしている。

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく安心して暮らせるように「安心生活、健康サポート、生きがいのある毎日」を基本理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、具体的なケアに活かせるように、職員たちが自主的に「私達の目標」を掲げ、努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の日課として食材や生活用品などの買物ができるように支援し、その際に地域の方と交流している(地元の商店に連携を依頼)。民生委員から地域行事の情報収集を行い、参加できるよう支援している。地域の子ども達との交流に向け、総合学習や職場体験学習等の受け入れも申し出ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、自己評価を自らの業務の振り返りの機会として捉え取り組んでいる。評価結果を職員全員で認識し、また、改善に向けて前向きに取り組めるよう、評価項目改善シートの作成も検討している。	○	改善目標を掲げ、それを達成することで職員のスキルアップやモチベーションアップに活用してほしい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、認知症介護をしている家族をはじめ地域の方々の情報源として、「スマイルニュース」の配布を検討するなどの話し合いがなされている。出席者の協力もあり、介護保険制度改正や医療についての情報提供や意見交換を行っている。	○	運営推進会議への理解と検討課題を共有してもらえるように、議事内容を家族全員に報告してほしい。地域への配布を検討中の「スマイルニュース」に、認知症ケアのワンポイントアドバイスなど掲載してはどうか。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会に積極的に参加している。昨年10月には調整指導により運営上の助言を受け、これを前向きに捉え、サービスの質の向上に活かしている。地域包括支援センターより「介護リフレッシュ講座」の講師(出講)依頼があった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や日々の暮らしぶり、金銭管理について、家族の訪問時に丁寧に報告している。4か月に1度、ホームの近況や外出時、ホーム行事等の写真入りの報告を掲載した「スマイルニュース」を発行し、家族に送付している。遠方に居住する家族には毎月、お便りを送付し暮らしぶりを報告している。	○	外部評価結果をすべての家族に報告し、意見を頂いてはどうか(新たな発見もあるかもしれないので)。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内・外部の苦情相談窓口を明記している。日頃から気軽に相談できる関係づくりや家族アンケートを実施している。運営推進会議においても、意見や希望を表出しやすい雰囲気づくりに努め、家族等の意見については、フロア長会議、フロアミーティングで話し合い、改善点などを検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者はほとんどなく、馴染みの関係づくりができています。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成している。研修日が勤務日に当たる職員にも予備日を設定し、全職員が研修を受けられるよう配慮している。今後は、「学びたい内容」について職員へアンケートも実施する予定。資格取得にも積極的に取り組めるように支援しており、平成21年度介護福祉士国家試験には7名が合格した。	○	内部研修(講師は、職員の持ち回り)を、スキルアップの機会として活かしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、垂水区内のグループホーム連絡会がないので、区内にあるグループホームと協働し、区の担当と相談しながら、その発足に向けて取り組んでいる。他ホーム主催の講習会に参加し交流している。県内の他ホームとの相互見学の予定があり、それらの情報交換によってサービスの質の向上につなげてゆきたいと考えている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して入居して頂けるよう、入居を決定する前にホーム見学をしてもらい、他の利用者との交流の機会を持っている。入居後は、ホームに馴染むための暫定プランにより対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活の中で家事などを協働し、料理の味付けなど教えてもらい、支え合う関係を築いている。職員も自身に辛いことがあれば、人生の先輩として利用者から励ましやアドバイスを頂くこともある。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、利用者や家族から今までの暮らしぶりについて、丁寧に聴き取りを行っている。利用者とのコミュニケーションをとることを大切にして、思いの把握に努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、主治医、看護師等に相談しながら、職員全員が意見を出すようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な(3カ月に1回)見直しのほか、状態に変化がある場合は、随時、利用者や家族、主治医と話し合い現状に即したケアプランを作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	“24時間安心”の医療連携体制が整っている。ホーム主治医は認知症介護への理解が深く、日常的な医療相談のほか、「看取り介護」についても連携・協力をいただいている。希望により、訪問歯科や訪問理美容も利用できる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム主治医による月2回の往診がある。定期受診や専門医への受診のほか、必要に応じて、ホーム主治医の紹介により他の医療機関への受診や入居前からのかかりつけ医の受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に延命治療同意書を交わしている。「重度化した場合の対応に係る指針」を定め、説明をしている。終末期に向けての意思を確認して、家族等と同意書を取り交わし方針を共有している。本人や家族がホームでの看取りを希望される場合は、主治医との連携体制のもと、看取りの経験がある職員が中心となり実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を守る言葉掛けや対応をできるように徹底し、利用者と家族の個人情報についての守秘義務があることを説明した上で誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マフラーや帽子、アクリルたわしの手作り…等々、趣味を活かせるように支援している。作品を「なでしこ」ギャラリーや地元の舞子中学校文化祭に出展している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、平日は配達食材によるものになるが、週末は利用者と相談して決めている。買い物・調理・後片付けなど、利用者一人ひとりの好みや能力に応じて協働している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるが、日勤時間帯であれば、体調や希望に合わせていつでも対応できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から、歌手や日本舞踊のボランティアを紹介して頂き、クリスマス会や誕生会などで披露してもらっている。これらのほかにも、ボランティアによる楽しみ事や、家族と一緒に楽しめる外出、行事についての企画を検討している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物外出のほか、利用者の希望により、以前住んでいた場所への外出支援や併設のデイサービスで開催する音楽療法やイベントなどにも参加できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける弊害を全職員が周知しており、日中は施錠していない。夜間は、防犯上、施錠している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の対応マニュアルを作成し、年2回の消火訓練を実施している。災害時に地域の協力が得られるよう、運営推進会議の場で相談しているが、地元自治会がなく、また、近隣は一般住宅が少なく(企業と商店が多く)、事を進めるに難しい面がある。	○	まずは、災害時、緊急時における利用者救出のために必要な情報(個人情報に配慮した)をまとめておかれてはどうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、食事の量や栄養に配慮している。水分は、個別にチェックをし、一人ひとりの状態や能力、習慣に応じ支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるように四季折々の花を活け、利用者の手作りの作品、外出時の写真等を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、馴染みのある物を持ち込んでもらうなどし、居室の環境を、長年暮らしてきた住まいに近づけるよう工夫している。入居後は、自身の好みで作品や写真を飾っている。		

※  は、重点項目。